

女性とリスクの「リンク」を断ち切る スワプナ・マジュムダール（インド）

インドの東部にあるビハール州では、若い女性が、HIV/AIDS に関連する汚名や差別をなくすための支援を実施しています。「リンクワーカー・スキーム」は、インドの農村地帯に暮らす人びとの感染に対する認識を高めるために、インド政府の「国家エイズ管理機構（NACO）」が始めたプログラムです。このリンクワーカー・スキームの顔として、女性団体が草の根レベルでの変革をもたらしつつあります。

ビハール州には HIV に感染した人が 10 万人以上います。インドの他の州との比較においては、特別感染者が多いとは言えませんが、ビハール州では移住の割合が高く、HIV/AIDS 蔓延のホットスポットとして浮上しています。ビハール州では、仕事を求めて移住する人びとの多くは、識字率も低く十分なスキルを有さない部族や、貧困にあえぐコミュニティの出身です。数々の研究により、移住者の性行動は非移住者の性行動よりリスクであり、その結果、蔓延している地域からあまり蔓延していない地域へと HIV が広がるのが立証されています。

これらの要因に、早婚の割合が高いこと、HIV/AIDS に対する認識がほとんど無いこと、危険な性行為、貧弱なヘルスケアシステム、ジェンダーの不平等などが相まって、ビハール州の農村地帯は HIV/AIDS の感染のリスクが最も高い地域となっています。ですから、感染の蔓延を防ぎ、さらには、HIV/AIDS の感染者・患者がしかるべき治療を受けて質の高い生活を送ることができる環境を構築するという政府の取り組みにおいて、リンクワーカーは非常に重要な存在となっています。

スイーターマリーは、リンクワーカー・スキームが初めて開始されたビハール州の 5 つの地域のうちの 1 つです。この地域は同州の中でも HIV の感染率が最も高く、ネパールとの国境沿いに位置しており、さらには、ビハール州の中でもリスクの高いその他の 4 つの地域に面しています。また、この地域には赤線地区があるため、国または州をまたいだ人身売買のリスクも高くなっています。インドでは HIV の主要な感染経路が性行為であり、しかもその大部分は金銭を介したパートナーとの無防備な性交渉であることを考慮すると、女性のセックスワーカーに対する支援の必要性がますます高まっています。

こうした状況にあって、若い女性のリンクワーカーが変革をもたらしています。年齢は 20 歳から 29 歳までで、プログラムが開始されたコミュニティの出身者です。彼女たちは HIV/AIDS のリスクに関する啓発を実施しています。保守的な地域であるビハール州では、性交渉や性的関心について語ることは容易ではありませんでしたが、女性のリンクワーカーたちの粘り強く献身的な取り組みが効果をあげています。また、彼女たちは女性のセックスワーカーからの信頼も勝ち得ており、今では親友のような扱いを受けています。スイーターマリーのラドハウル村のセックスワーカーであるラマは、彼女が感染について詳しく学び、自分自身を守る重要性を理解するようになったのは、リンクワーカーのスニタ・

デビのおかげだと話します。「彼女がくれるコンドームを必ず客に使わせるようにしています。それに HIV に感染した場合も、治療を受ければ通常の生活が送れるようになると彼女に説得されてから、私も検査を受けました。ありがたいことに結果は陰性でした。少なくとも今のところは、恐怖にふるえて暮らさなくてもいいですね。彼女の話聞いて良かったです。」とラマは話します。



リンクワーカーの
シャーミラ・バハルティさん

同様に移住の割合が多くリスクの高い地域であるサマスティープルでは、リンクワーカーのシャーミラ・バハルティが、詳細な情報を受けた上で決断するように女性たちに勧めています。彼女は自助グループ（SHGs）と連携し、伝統的に自分たちの家に縛られている女性たちの認識を高める手伝いをしています。グループの支援により、自らを守るために決断する自信が女性についてきました。

地元の農村のコミュニティの中で健康や HIV/AIDS に関する情報を広めることを目的に、政府が運営する村の託児所に設置された「ビレッジ・インフォメーション・センター」も、リスクにさらされる女性の支援の一助となっています。この託児所では、0 歳から 6 歳までの子どものための栄養や健康に関するサービスが提供されています。シャーミラ・バハルティは、このセンターで、子どもたちのための食糧を供給したり、健康手帳を作成しながら、その子どもたちの母親に安全に関するメッセージを伝えるよう、女性のスタッフたちに働きかけています。

「私たちの全員が分かっていることですが、別の地域や別の州に出稼ぎに行く男性は他の女性と性交渉を持ちます。もしこうした男性が感染すれば、その妻も感染します。ですから、子どもがセンターに登録されている女性には、自分自身を守るように伝えています。こうしたことは、全て、リンクワーカーのシャーミラから学びました」と、サマスティープルのクハンプル村で働く託児所のスタッフ、アンジュ・クマールは話します。

このセンターは移住者の帰郷に関する情報源でもあったために、シャーミラが選んだ戦略は成功しました。女性たちは夫に関する個人的な情報を共有し、託児所のスタッフやリンクワーカーからコンドームを渡されます。サマスティープルの若年人口のほぼ 20% が職を求めてムンバイやデリーといった大都市に出ることを考慮すると、こうした情報は欠かせません。というのも、このようにして大都市に出た人びとは、年に一度だけ、祭りの期間に帰郷するからです。この時こそが、感染していないか検査を受けるように説得できる時期なのです。

地方と都市を行き来する出稼ぎは、性感染症（STI）や HIV/AIDS に対する地方の女性のリスクを高める上で、大きな役割を果たします。しかしながら、リンクワーカーの活動のおかげで、インドの地方でリスクにさらされている女性は、自分自身を守ることを学んでいるのです。